京都芸術大学紀要二十六号の発行にあたって

二〇二二年度の京都芸術大学紀要Genesis 26が今年も充実した内容で発行されることを大変うれしく思っている。本学の紀要は、制作に携わる教員の作品の紹介と研究系の教員の論文が同じ紙面を飾る構成となっており、総合芸術大学ならではの学術誌である。

今号には七点の作品と展示の報告、五編の研究論文、二編の研究ノート、四編の研究報告が掲載されている。

二〇二〇年に始まり今も収束の目途のたたないコロナ禍の日常の中、仲間と集う自由、語り合う自由、移動する自由などに大きな制約が生じた。作品を制作し展示することはもちろん、研究のためのフィールドワークや関連文献を集め資料を整理するといったことにも、さまざまな困難があったことは想像に難くない。本号に掲載されている作品や論文には、教員の方々の苦心や工夫の、目に見えない跡が刻まれているのではないだろうか。読者の皆様には、そうしたことを心の片隅において、ひとつひとつの作品をじっくりと鑑賞し、一編一編の論文をていねいに読み進んでいただければと願っている。

本紀要は、ＰＤＦ版と冊子体で発行されており、それぞれの媒体にはそれぞれの良さがある。ＰＤＦ版には、作品や論文ごとに分けて個別に発信することができる身軽さがあるので、作品に関心をもつ方たちや、同じ専門領域の研究者の方たちに送って感想や意見を尋ねてみるなど、次の作品制作や論文執筆に向けて、研鑽を重ねるための役にたてていただきたいと思う。

一方、冊子体の紀要は、その年度における本学の先生がたの、創作、研究、教育の有り様を示す作品集としての意義があり、本学の歴史のなかの「二〇二二年度における創作活動・知的活動の成果」として、未来を生きる多くの読者に読み続けられるだろう。毎年の紀要への投稿、掲載が、本学の教員の方たちの創作意欲、研究意欲を高める一助となることを願っている。

二〇二二年九月二〇日

京都芸術大学学長　吉川左紀子